

花のまち甲佐で 笑顔の花を咲かせよう

「春の菜の花畑や夏の向日葵畑を楽しむ家族連れの笑顔が見たくて、耕作放棄地の植栽を続けています。子どもたちのはじける笑顔が一番うれしいですね」と話すのは、糸田資源保全会の緒方秀壽さん

（糸田区）。
「農作業の傍ら花畑の手入れをしています。苦勞もありますが、毎年楽しみにされている方も多いので、なかなか止められません」と苦笑する緒方さんは、糸田地内や津志

田河川自然公園内の耕作放棄地に地域住民と協力して季節の花の植栽を行っている。
「10年以上前になりますが、農家仲間から一緒にやろうと誘われたのがきっかけです。以来、菜の花畑と向日葵畑の準備を毎年続けています」と緒方さん。
今年の春は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、多くの人が津志田河川自然公



緒方 秀壽さん
Ogata Hidehisa

〔糸田区〕

おがた ひでひさ / 糸田資源保全会の一員として、耕作放棄地に季節の花を植え続けて約10年。農村の景観維持だけでなく地域の観光資源として、町内外の多くの人の目を楽しませている。

園を訪れた。河川敷に広がる菜の花畑では、例年以上に多くの家族連れの笑顔が見られたという。
「今年は菜の花畑の中に小道を作ってみました。菜の花の通路を元気に走り回る姿を見て、新型コロナウイルスによる休校で不安を感じていた子どもたちが笑顔になってくれたのなら、やって良かったなと思います」
初夏の長雨の影響で、今年の津志田の向日葵畑は10月上旬が見ごろになりそうだと話す緒方さんは「季節外れですが、お出かけにはいいかも。ちょうどキンモクセイの開花時期とも重なりますね。昨年からは麻生原にも向日葵畑を準備していますので、キンモクセイ観賞のついでに探してみてください」と笑顔を見せる。
「花には人の心を癒す力があると思います。『花と緑と鮎のまち』を訪れた人が、咲き広がる花畑を見て喜んでもらえるといいですね」と語る緒方さんは、まちを彩る花々の手入れに汗を流す。

広報 こうさ

2020年（令和2年）10月号
通巻615号